

報告

2017 年ジュニアセッションの報告

松本直記（慶應義塾高校／ジュニセッション世話人）

1. はじめに

九州大学伊都キャンパスで行われた日本天文学会2017年春季年会において、3月18日、第19回ジュニアセッションが開催された。主催は、日本天文学会で、天文教育普及研究会・高校生天体観測ネットワークとの共催、日本学術会議の後援を得て行われた。

会場となった椎木講堂は円筒形の巨大な建造物で、ホールは最大では3000人の収容力を誇る。目的に応じたレイアウト変更が可能で、ジュニアセッションでは1000人収容のレイアウトで利用させていただいた。



図1 会場となった椎木講堂

2. 当日までの準備状況

今回も口頭発表とポスターのみの発表を併せて80件を超える申し込みがあり、実行委員会の調整を経て、口頭発表40件（うち6件はタイからの参加者）、ポスターのみの発表36件となった。口頭発表の時間は一件4分とし、短いものの一通りの展開を説明できる程度の時間を確保した。ポスターのみの発表は、希望者には1分間（スライド1枚のみ）のショートプレゼンテーションの時間を設けた。いずれも例年通り、ポスターの制作は必須とし、ポスターセッションのコアタイムの時間を十分に取ることで、より深い論議や情報交換が

できるように配慮した。

学会全体のポスターセッション会場も、この椎木講堂に設定されており、天文学会会員（一般）とジュニアセッションのポスターを分離せず、極力分野を考慮しながら、混在する形で掲示位置を設定した。

3. ジュニアセッション当日の様子

当日は、事前にプレゼンテーション資料の提出を求めて取りまとめ、次の発表者への誘導を明確にするなどして、手際よくセッションを進めることができた。

参加者は発表団体関係者、学会参加者、一般参加の方など、併せて約400人の参加があった。

恒例となったタイからの高校生参加は6件。タイ国立天文学研究所（NARIT）にタイ国内での選抜や来日引率に尽力していただいている。口頭発表の時間が十分に取れないので、実行委員会で発表枠を決めさせていただき、その上で国内選抜を経ての発表であった。同世代のタイの高校生による英語の発表は、日本の生徒にも大きな刺激を与えたようである。

ポスター発表のショートプレゼンテーションでは、極めて限られた時間の中で、各チームが自分たちの研究の概要や魅力を提示し、色々工夫してポスターへといざなう努力が見られた。

午後の口頭発表セッションも1件4分と限られた時間ではあるものの、研究の経過、結論を工夫して時間内に収めていた。各チームとも発表準備は十分に行われているようで、時間超過はほぼ見られなかった。

表1 当日の開催概要

8:45	受付開始（九州大学伊都キャンパス 椎木講堂）
午前の部	座長：林 左絵子（国立天文台ハワイ観測所）
9:30～10:30	タイセッション T01-T06（各講演4分）＋質疑6分 ショートプレゼンテーション（各講演1分）
10:30～13:30	ポスターセッションコアタイム（講堂ホワイエ・外周通路）
午後の部	座長：中西 裕之（鹿児島大学）、島ノ江 純（八女学院高等学校・中学校）
13:30～16:15	セッション I 太陽系天体 7件（各講演4分）＋質疑5分 セッション II 恒星・系外惑星 8件（各講演4分）＋質疑5分 セッション III 星雲・星団・銀河 7件（各講演4分）＋質疑5分 セッション IV 位置天文・宇宙開発 6件（各講演4分）＋質疑5分 セッション V 星空環境・装置開発 6件（各講演4分）＋質疑5分

4. 参加者・研究者の感想

以下、参加した生徒の感想のいくつかを示す。

「ご助言をたくさんいただき、より良い研究になりそうです。」「なかなか高校生で経験できないことをできたと思います。研究者さんともお話しできて、本当に有意義でした。」「グラフから読み取り切れていなかった情報や、今後の方針などについてまでたくさんの方から教えていただけてとても勉強になった。」「同世代の人たちのハイレベルな研究内容を目の当たりにしてとても刺激を受けた。」「来年までにはタイの方と研究に関する話ができる英語力を身に付けたいと思いました。」「大学生やタイの方々からも多くの意見をいただけてとても勉強になった。」

このように、同世代の高校生との交流や、タイからの参加者との交流、そして研究者と直接話げできたことが研究や資質向上のモチベーションとなった様子がうかがえる。

同様に、研究者からの感想をいくつか示す。「一般のポスターセッションとジュニアセッションのポスターが混在していたのは良かった。」「ポスターが一般と混じっていたのは、意識して足を運ばなくても目にする機会ができて大変に良かった。」「ポスターが一般のも

のと同じ場所にあったので、初めて議論できました。結果の考察について、物足りなさを感じましたが、限られた時間で頑張っていると思います。また、楽しそうにやっているのが良いと思いました。」「ポスターを拝見して、数名の生徒さんとお話しをすることができました。その熱心さに感動しました。また先生方のきめ細かい指導にも敬意を表します。」

「最近のジュニアセッションのレベルは上がってきていて、専門家が見ても興味深いものも増えている。今回、研究者のポスター発表と並んでジュニアセッションのポスターが配置されていたのは、気軽にジュニアセッションのポスターを見る機会が増え、なかなか良



図2 口頭発表セッションの様子

かった。逆に、ジュニアセッションで発表する高校生たちにとっても、いい刺激になったのではないだろうか。」

このように、研究者からの感想では、ポスター会場が一般と混在することにより、高校生の研究を見る機会、ディスカッションする機会に恵まれたことや、このことが双方の良い刺激になる旨の意見が見られた。



図3 ポスターセッションの様子1

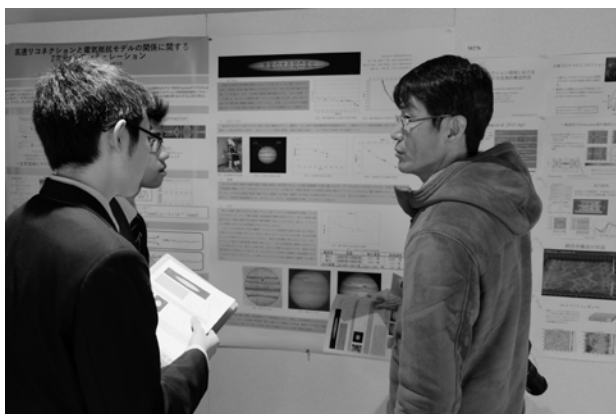


図4 ポスターセッションの様子2

5. おわりに

第19回ジュニアセッションは、熱心な参加者と非常に立派な会場に恵まれ、充実したものとなった。関係各位には厚くお礼を申し上げます。



図5 すっかりおなじみとなった大西委員長のガリレオコスプレ

日本天文学会年会という天文学者の集まる場に集い、自分たちの研究を発表するという機会を提供することは、生徒たちにとってその意義は大きい。今回においては、特に様々な制約から一般とジュニアセッションのポスターを分離せず混在させたことで、天文学者の卵たる参加生徒にとって、研究者から直接アドバイスをいただけたりと論議したりする機会を増し、このセッションに参加する意義をさらに高めたと感じる。このような状況はジュニアセッションの規模がまだ小さかった頃はよく見られた。一般のポスターと同じ会場の一部に生徒のポスターを掲示することが多かったので、研究者との交流がしやすかったが、規模が大きくなってからは会場が分離され、なかなかこのような交流をすることが難しくなってしまった。今回の活況は学会年会内にジュニアセッションを開催する元来の意義が活かされた結果と言えよう。